

グアテマラ内政・外交（2011年5月）

平成23年6月

在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、2日、本年総選挙の公示が行われ第1回投票日を9月11日とする等発表されたほか、9日、在任中の公金横領容疑で起訴されていたポルティージョ元大統領(2000-2004)他に対し証拠書類等不十分により無罪判決が下された。治安面では、15日、ペテン県の農園で麻薬密輸組織による犯行と見られる農園労働者多数の惨殺事件が発生し、16日夜、コロン大統領は右を受け同県に戒厳状態宣言(30日間)を発令した。

外交面では、コロン大統領が、5日にホンジュラスを、22日にニカラグアを、26日から27日までエクアドルを訪問し、各国大統領との会談等を行った。また、19日には当国において臨時の中米首脳会談が開催された。

2. 内政

(1)大統領選挙関連世論調査

9日付シングロ21紙は、本年総選挙に関し Vox Latina 社に委託し実施した世論調査(4月25日から5月1日まで全国の1,200名を対象に面接方式で実施。誤差±3.8%)の結果を掲載した。

(ア)本日大統領選挙があるとしたら誰に投票するか。

- ・ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首： 37.3%
- ・サンドラ元大統領夫人： 20.8%
- ・バルディソン自由民主会派(LIDER)党首： 6.8%
- ・スーヘル「公約・確信・秩序」運動党(CREO)党首： 6.5%
- ・カバジェーロス「ビジョンと原則」党(VIVA)党首： 4.6%
- ・スーリー・リオス国会議員(グアテマラ共和戦線(FRG))： 1.6%
- ・メンチュウ・ウィナック政治活動(WINAQ)代表： 1.3%
- ・エストラダ国民革新党(UCN)党首： 0.8%
- ・グティエレス国民進歩党(PAN)党首： 0.4%
- ・トレビアルテ国家開発行動党(ADN)党首： 0.4%
- ・まだ決めていない： 3.2%

(イ)大統領選挙で決選投票がある場合、どちらに投票するか。

- ・ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首： 55.0%
- ・サンドラ元大統領夫人： 18.3%
- ・どちらにも投票しない： 9.7%
- ・秘密投票のため回答しない： 8.8%

- ・無効票を投票する： 2.2%
- ・投票しない： 2.2%
- ・白票を投票する： 0.6%
- ・無回答／無効回答： 17.5%

(2) 2011年総選挙の公示

2日、当国最高選挙裁判所(TSE)は本年当国総選挙の公示を行い、投票日を9月11日、大統領選挙で何れの候補も総得票数の過半数を得られない場合の決選投票を11月6日に実施する等発表した。

(3) アルスー・グアテマラ市長の市長選出馬表明

26日、アルスー・グアテマラ市長は FACEBOOK に掲載したビデオで、本年のグアテマラ市長選に出馬する旨表明した。

(4) 国防相及び大統領府要人警護庁長官の交代

3日夜、コロン大統領は、バレンスエラ国防大臣の後任としてルイス国軍参謀総長(空軍)、マロキン大統領府要人警護庁(SAAS)長官の後任としてゴンサレス大統領次席秘書官が就任した旨発表した。コロン大統領は大統領府で行われた記者会見において、ルイス新国防大臣及びゴンサレス新大統領府要人警護庁(SAAS)長官が就任した旨発表した。コロン大統領は、同席したバレンスエラ前国防大臣のこれまでの功績を称え感謝の意を表明すると共に、同前国防大臣から昨年 12 月に辞任願が提出されていたことを受けた国軍内の階級上の交代である旨述べた。コロン大統領は、大統領府要人警護庁(SAAS)長官の交代については、組織再編によるものと述べるに留まった。

(5) ポルティージョ元大統領等に対する無罪判決

(ア)9日夜、当国第 11 刑事裁判所は、在任中の国防省予算 1 億 2 千万ケツアルの横領容疑で起訴されていたポルティージョ元大統領(2000-2004)及び、同政権期のラックス元国防相並びにマサ元財務大臣について、検察庁及びグアテマラ無処罰問題対策国際委員会(CICIG)による証拠書類及び関係者の証言が起訴容疑の立証に不十分であったとして、無罪判決を言い渡した。この判決により、ラックス元国防大臣及びマサ元財務大臣は釈放され自宅拘禁となる一方、ポルティージョ元大統領は米国による資金洗浄容疑による引き渡し要求が出されているため引き続き収監された。

(イ)パス検事総長は、「検察としては、有罪に導くに十分な証拠は全て揃っているとの見解であり直ちに控訴する予定である。」旨述べた。

(ウ)無罪判決後、ポルティージョ元大統領は、「自分に不利な証拠はないことが示された。本件はカストレサーナ CICIG 前代表に誤った情報がもたらされたことが原因である。」「裁判所の今回の判決に満足している。但し、これで決着するのではないと思う。検察は控訴するであろうし、我々も議論を続ける。」等述べた。

(6) ジャマテイ元刑務所機構局長に対する訴訟終了

10日、当国裁判所は、2006 年のパボン刑務所占拠時における囚人の死亡に関し非合法的処刑容疑で起訴されていたジャマテイ元刑務所機構局長及び当時の内務省誘拐対策局関係者等3名に対する非合法的処刑容疑に関する訴訟を、検察により提出された証拠が不十分であり、関係者の証言から囚人が死亡した際にジャマテイ元局長等が現場に居なかったこと等の理由により結審する判決を下した。ジャマテイ元局長は同日、同訴訟の背後には政治的狙いがあったとし(同元局長は前回 2007 年大統領選で与党(当時)国民大連合

(GANA)から出馬し得票率3位を達成したほか、本年大統領選挙にも機会統合運動会派(MIO)から出馬する有力候補と見られていた。),「グアテマラ無処罰問題対策国際委員会(CICIG)の主張により愚かなゲームに付き合わされる例がまた一つ示された。」として同判決を強く批判した。

3. 治安情勢関連等

(1) ペテン県農場労働者大量殺害事件の発生

(ア) 15日、ペテン県ラ・リベルタ市にあるロス・ココス農園で、27名の農園労働者が首を切断され殺された。検察庁、国家文民警察及び内務省はいずれも、メキシコ系麻薬密輸組織ロス・セタスの傘下のグループ「セタス200」のメンバーによる犯行であると指摘した。捜査当局によると、15日早朝、軍服を着用したグループ50名強が同農園に侵入し、車両12台を使って労働者たちを農場主の家に集合させた。その後、農場主の居場所を問い詰めたが返事を得られず一人ずつ殺害した。犯行グループは被害者らの死体を住宅周辺に放置し、頭部の一つを井戸の中に投げ入れたと見られる。

(イ) 当局によると、同農園主のサルゲロ氏に対する脅しは5月上旬から始まっており、サルゲロ氏の娘婿が5月10日に同県サン・ベニートでロス・セタスに誘拐されていた。犯行グループによる身代金の要求に対し、サルゲロ氏の娘と娘婿の父親が身代金を渡しに赴いたところ、誘拐され、13日夜、同県国道沿いでばらばら死体となって発見された。現場には「オットー・サルゲロの首を取る。セタス200」というメッセージが残されていた。

(ウ) 16日夜、コロン大統領はペテン県で発生した麻薬密輸組織ロス・セタスによると見られる農場労働者27人の虐殺事件を受け、ペテン県に戒厳状態宣言(30日間)を発令した。同日には、同県サンタ・エレナ市(同県県庁所在地のフローレス市から約2km)では、一連の事件発生を受けて国家文民家警察(PNC)、検察庁及び軍が家宅捜索を行った際、麻薬密輸組織のメンバー2人が手榴弾を投擲し死亡すると共に、警察官一人が重傷を負った。また元グアテマラ軍人であるロス・セタスのメンバーの男が逮捕された。家宅捜索により、コカイン3キロ、現金15万ケツアル、盗難被害届の出ていた車両3台、銃器及び防弾チョッキが押収された。

(2) 世界平和度指数の発表

26日付当地シグロ21紙は、本年の世界平和度指数において、グアテマラがラテン・アメリカ諸国で下から2番目の順位となった旨報じた。同紙によると、ラテン・アメリカ諸国23ヵ国内では、ウルグアイが1位、コスタリカが2位、チリが3位で、グアテマラが22位、コロンビアが最下位の第23位となった。アナリストは、当国の順位について無処罰犯罪の件数が多いためであると指摘している。同指数を発表した英経済平和研究所によると、同指数は戦争、内戦、社会の治安状況と軍備等に関し153ヶ国を対象として調査及び評価したもの。

4. 外交

(1) コロン大統領のホンジュラス訪問

5日、コロン大統領はホンジュラスを訪問し、ロボ・ホンジュラス大統領と中米地域治安問題について協議した。コロン大統領は、「ロボ大統領とは、治安対策に関する各国間の連携について協議した。」旨述べた。ロボレス大統領府広報庁長官は、「(ホンジュラスとの)国境地域においては、組織犯罪、麻薬密輸活動、密輸及び人身売買等の犯罪が頻発している。各国が単独で右問題に対処することは難しく、中米地域として対策を

練ることが非常に重要である。今般の両国大統領会談では、本年6月に当国で予定されている中米治安戦略支援国際会議の詳細を詰めることが出来た。」旨述べた。またコロン大統領は、サンペドロ・スーラで開催された「ホンジュラス、ビジネスへの開放(Honduras, abierta a los negocios)」フォーラムに出席した。

(2) 中米首脳会合の開催

19日、当国アンティグア市において、コロン大統領、フネス・エルサルバドル大統領、ロボ・ホンジュラス大統領、ベガ・ベリーズ第一副首相、コロネル・ニカラグア外務次官及び、コスタリカ、パナマ各国代表者の参加を得て、中米地域における治安対策に関する臨時の首脳会合が開催された。同会合では、(ア)当国ペテン県における治安作戦の展開状況、(イ)中米地域における治安面の主要問題、(ウ)中米治安戦略支援国際会議の準備状況、(エ)犯罪防止のための社会プログラムについて議論された。

(3) コロン大統領のニカラグア訪問

22日夜、コロン大統領はマナグアで開催された中米4カ国首脳会合に参加した。同会合には、オルテガ同国大統領、フネス・エルサルバドル大統領、ロボ・ホンジュラス大統領及びオブザーバーとしてセラヤ前ホンジュラス大統領、マドゥーロ・ベネズエラ外務大臣が出席し、ホンジュラスの国際機構復帰及びニカラグア・ホンジュラス関係正常化、中米関税同盟の形成、中米地域の安全について合意された。

(4) コロン大統領のエクアドル訪問

コロン大統領は、26日から27日までエクアドルを訪問し、26日、コレア同国大統領と大統領官邸で会談し、先般署名された(本年4月15日)エクアドルとの二国間部分的自由貿易協定を扱ったほか、関税協力、観光、麻薬対策等に関する二国間協定への署名を行った。両国首脳会談では、経済、移民、観光、麻薬密輸対策などを協議したほか、ラ米カリブ諸国共同体(CELAC:Comunidad de Estados Latinoamericanos y Caribenos)創設の推進について合意した。また、米国の移民法について違法移民を犯罪者扱いするものとして拒絶を表明した。会談終了に際しては、麻薬密輸他諸犯罪対策、文化遺産保護、自然災害対策関連情報共有、観光部門改善等で両国が共同で対応することで合意した。